

2026年7月3日

報道関係者各位

株式会社 **日本トリム**

**7月は「海の月間」 ごみを減らすアクションを
使用済み浄水カートリッジのリサイクル本数累計 500万本を達成！
積み上げるとエベレスト 100個を超える高さに相当**

整水器売上金額シェア No.1^{*1}の株式会社日本トリム（本社：大阪市、代表取締役社長：田原周夫、以下「日本トリム」）が2010年から実施している使用済み浄水カートリッジのリサイクル本数が、2026年6月で累計500万本を達成しました。

日本トリムでは、環境保全活動の一環として、整水器に搭載された使用済み浄水カートリッジのリサイクル活動を行っています。2010年1月からSDGsの取り組みに先駆けて、それまで家庭ごみとして処理されてきた使用済み浄水カートリッジをお客様宅から無償回収し、リサイクルする取り組みを行っています。浄水カートリッジのリサイクルは、日本トリムのマテリアリティ「環境」への取り組みの一つであり、CO₂排出削減や資源の有効活用を目指してお客様と共に行うものです。

※1 2023年度家庭用整水器国内市場 同器本体におけるメーカー出荷金額ベースシリーズ製品合計値 株式会社矢野経済研究所調べ 2025年6月現在 ※本調査結果は、定性的な調査・分析方法による推計である。

■浄水カートリッジについて

整水器や浄水器の内部には、不純物を除去するためのカートリッジが入っています。一般的にろ材には、活性炭、中空糸膜、セラミックなどが使用されますが、日本トリムのマイクロカーボンカートリッジは、環境に配慮したヤシガラ活性炭を使用しています。カートリッジは使い続けることにより、徐々にろ過能力が低下するため、所定の浄水処理能力に達した時や、衛生面を考え、定期的な交換が必要になります。一般的な交換時期は製品や処理能力により様々ですが、日本トリムの浄水カートリッジの交換目安は最長で1年です。



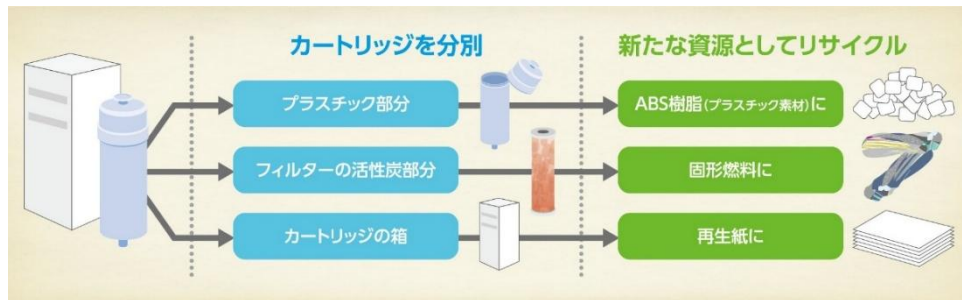
日本トリムのカートリッジ

この度、お客様から返却された使用済み浄水カートリッジのリサイクル本数が累計500万本を達成しました。縦に積み上げると、エベレスト100個を超える高さ^{*2}に相当します。

※2 当社で一番小さい「CMαカートリッジ」の長さ約18cm、エベレストの標高8,849mで計算。

■新たな資源へ

浄水カートリッジは、カートリッジとして再利用されるのではなく、新しい資源へと生まれ変わります。フィルター部分の活性炭は不織布などと加工されて固形燃料になります。外側のプラスチックケースはABS樹脂という汎用性の高いプラスチック素材に生まれ変わります。また、カートリッジの箱も再生紙になります。



ABS樹脂



固形燃料



再生紙

■使用済み浄水カートリッジのリサイクルの流れ

1. 浄水カートリッジの回収

浄水カートリッジをご購入いただいたお客様に返送キットを利用して、使用済みカートリッジを返送いただきます。

2. リサイクル工場へ

回収された浄水カートリッジはまず高知県南国市のリサイクル工場に運ばれます。1週間で約6,000本が届きます。(中にはお礼状や子供たちからのメッセージなども添えられて返送されるケースもあります。)



回収されたカートリッジ

3. 1本ずつ分解



プラスチックケース



フィルター



汚れがひどいものも

1本ずつ専用の機械を使って、プラスチックケースと中のフィルターに分解します。

4. 水分を飛ばして乾燥

フィルターの中にはまだ水分が残っているので、遠心分離機を使って、中の水分を飛ばします。さらに、完全に水分を取りきるため、乾燥専用のユニットハウスに2~3日寝かせます。



遠心分離機に入ったフィルター



ユニットハウス

日本トリムでは、サステナブルな社会の実現のためには、地球環境に配慮して事業を推進することが不可欠であると考えており、事業活動によって発生する環境負荷を低減させる努力を行う一方、環境課題の解決に貢献する製品や技術開発にも積極的に取り組んでおります。今後も生命の源となる「水」を扱う企業として、浄水カートリッジのリサイクルを始めとした、SDGsの取り組みを進めて参ります。



■7月は海の月間

7月は、「海の日」を中心に海や水への関心が高まる「海の月間」です。日本トリムでは、生命の源である「水」を扱う企業として、毎日の飲み水を家庭でつくる浄水器の提供を通じ、ペットボトルごみやCO2排出の削減につながる暮らしを提案しています。また、使用済み浄水カートリッジの回収・分別・リサイクルに加え、環境に配慮した素材の採用や、製品カーボンフットプリントの算定による環境負荷の可視化にも取り組んでいます。

■日本トリムとは

株式会社日本トリムは、1982年に現会長である森澤紳勝が創業し、医療機器である電解水素水浄水器製造販売を主軸とした事業を展開しています。世界に先駆けて水が持つ機能に着目し、30年以上にわたる産官学共同研究により健康をサポートする水®、電解水素水の機能、有用性を追求しています。

現在では、電解水素水の活用は飲用にとどまらず、血液透析における次世代新規治療法や農作物の栽培など様々な分野へと応用し展開しています。また、グループ会社では国内最大手の民間さい帯血バンク（株式会社ステムセル研究所、東証グロース市場：7096）事業を展開するなど、日本トリムグループはグローバルなメディカルカンパニーを目指しています。

■会社名/株式会社日本トリム（東証プライム市場：6788）

□設立年月日：1982年(昭和57年)6月12日

□代表取締役社長：田原 周夫（たはら のりお）

□資本金：992,597,306円

□従業員数：777名（2026年3月末日時点 ※関連会社等を含む）

□企業ホームページ：<https://www.nihon-trim.co.jp/>